イ　小児科定点

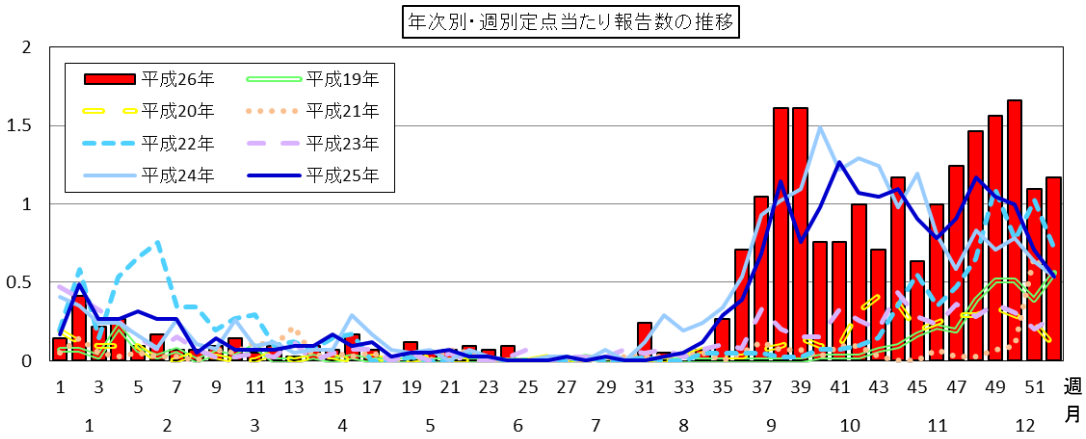
(ｱ)　ＲＳウイルス感染症

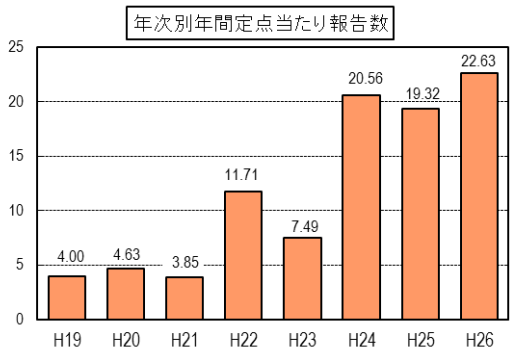
平成26年は年間報告数928例，年間定点当たり報告数22.63，年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.80，前年比1.17であった。

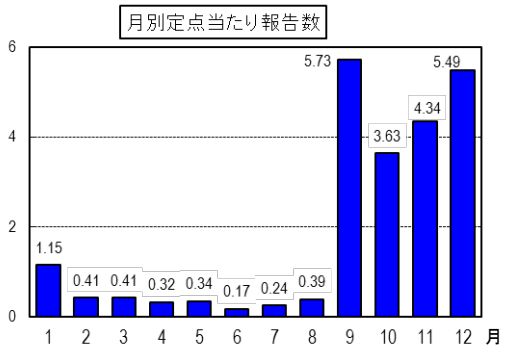
過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると，最も多かった。

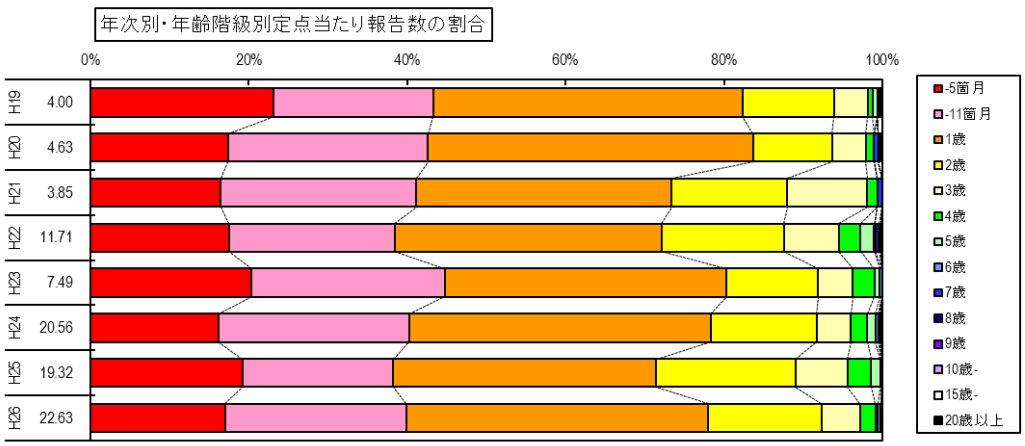
月別定点当たり報告数では，9月（5.73），12月（5.49）が多く，2～8月の報告数は少なかった。

年齢階級別では，1歳（38.1%）が最も多く，次いで6～11箇月（22.8%），0～5箇月（17.0%），2歳（14.3%）の順となり，2歳以下が全体の92.3%を占めた。









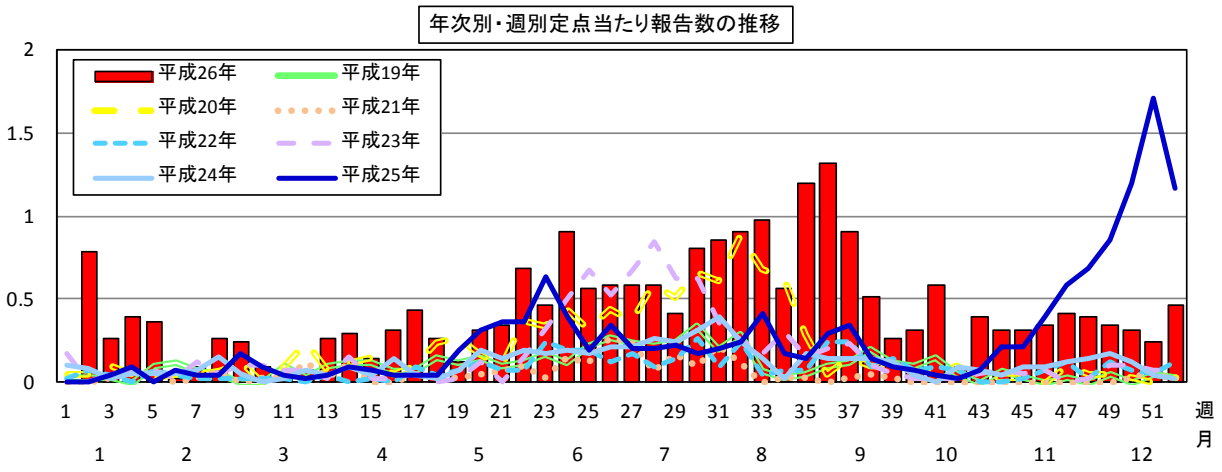
(イ)　咽頭結膜熱

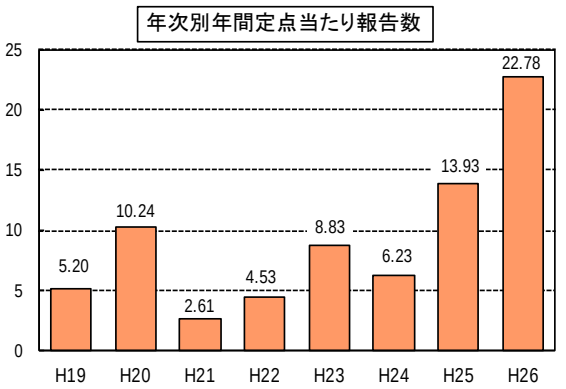
平成26年は年間報告数934例，年間定点当たり報告数22.78，年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比3.15，前年比1.64であった。

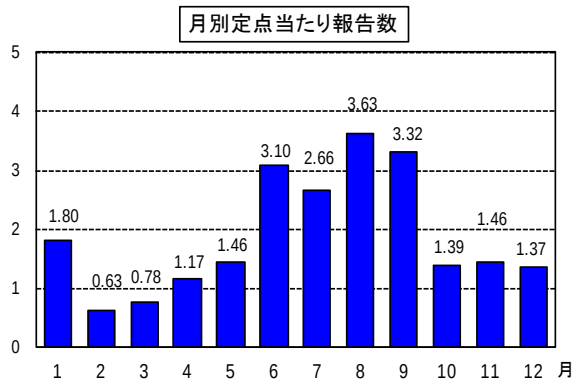
過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると，最も多かった。

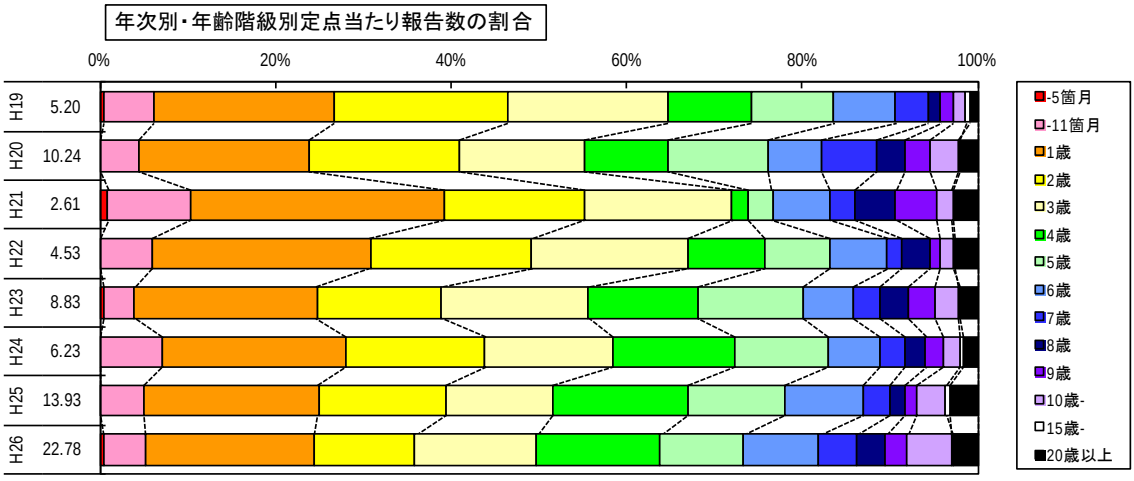
月別定点当たり報告数では，8月（3.63），9月（3.32），6月（3.10）が多かった。

年齢階級別では，1歳（19.3％）が最も多く，次いで4歳（14.0％），3歳（13.9％），2歳（11.5％）の順となり，1～4歳が全体の58.7％を占めた。









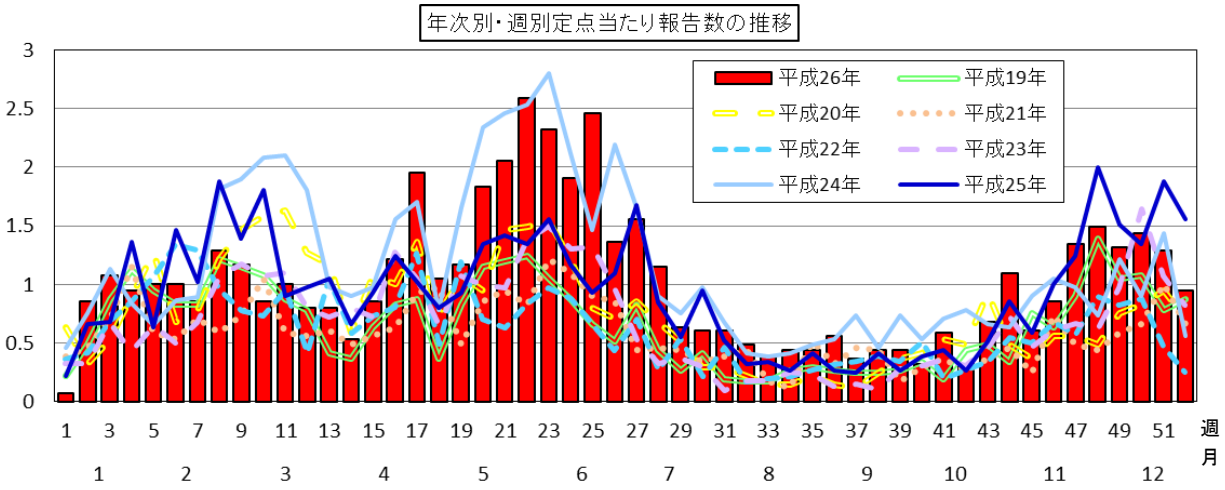
(ｳ)　A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

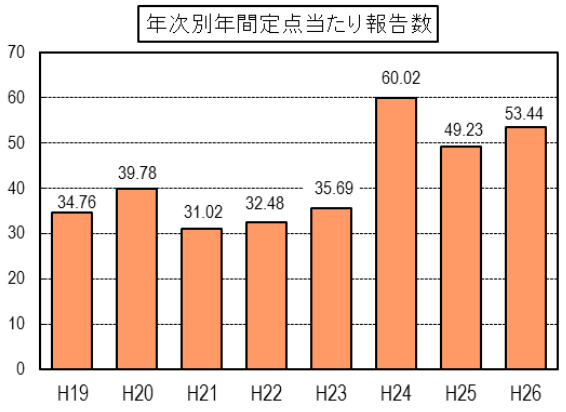
平成26年は年間報告数2,191例，年間定点当たり報告数53.44，年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.28，前年比1.09であった。

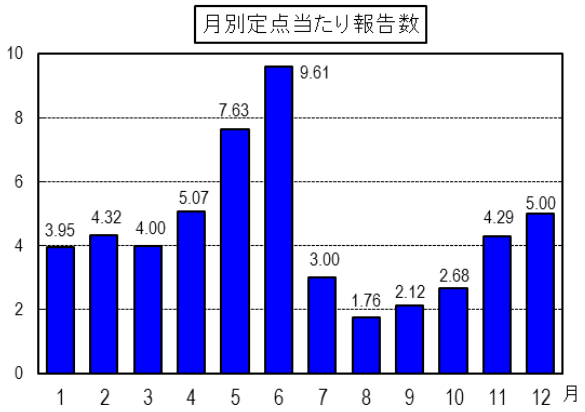
過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると，最も多かった平成24年に次いで多かった。

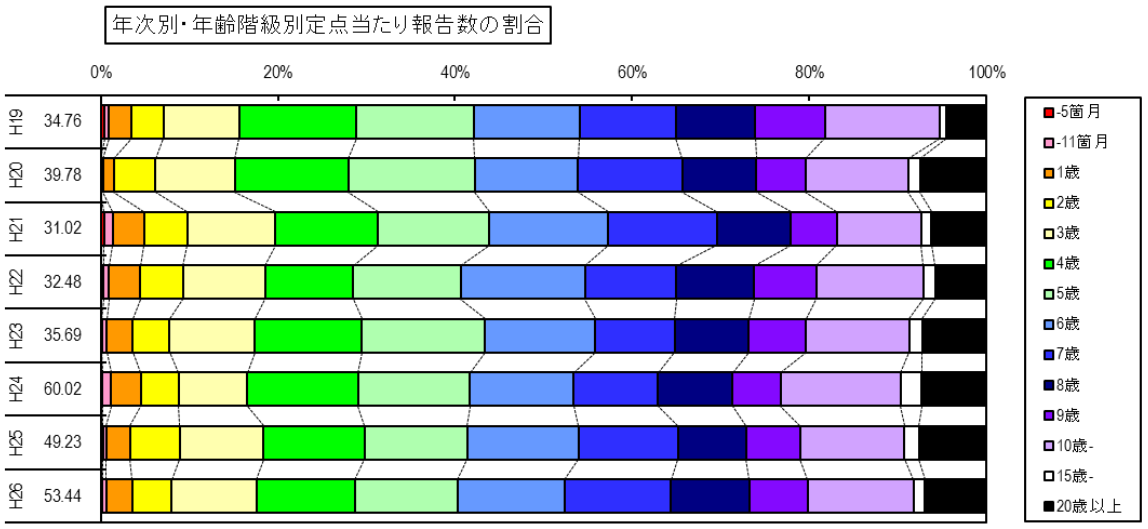
月別定点当たり報告数では，6月（9.61），5月（7.63）が多く，8月～10月の報告数は少なかった。

年齢階級別では，6歳（12.1%）が最も多く，次いで7歳（12.0%），5歳（11.6%），4歳（11.1%）の順となり，4歳～7歳が46.8%を占めた。









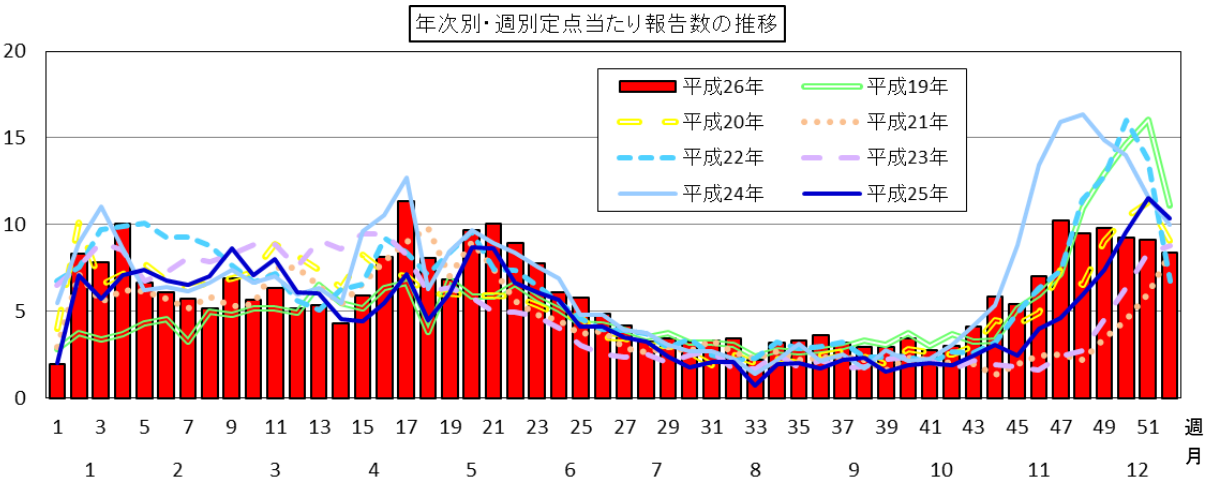
(ｴ)　感染性胃腸炎

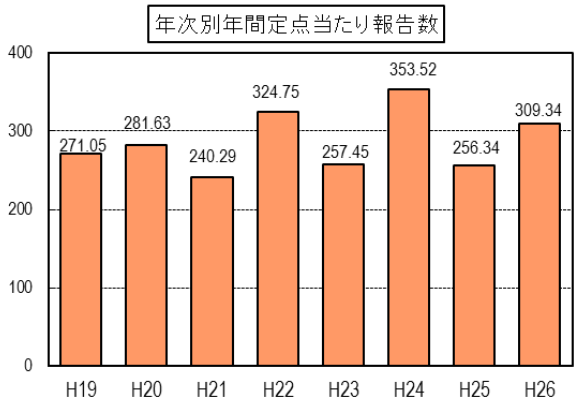
平成26年は年間報告数12,683例，年間定点当たり報告数309.34，年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.08，前年比1.21であった。

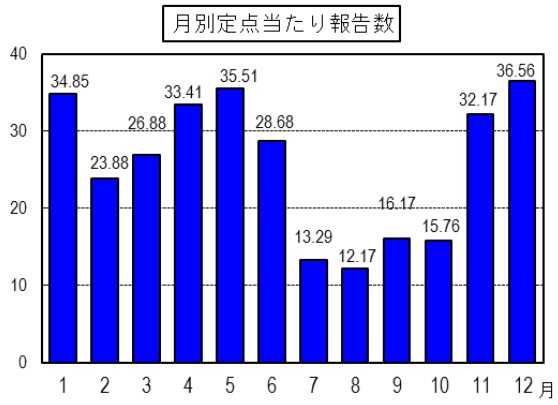
過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると，平成24年，平成22年に次いで多かった。

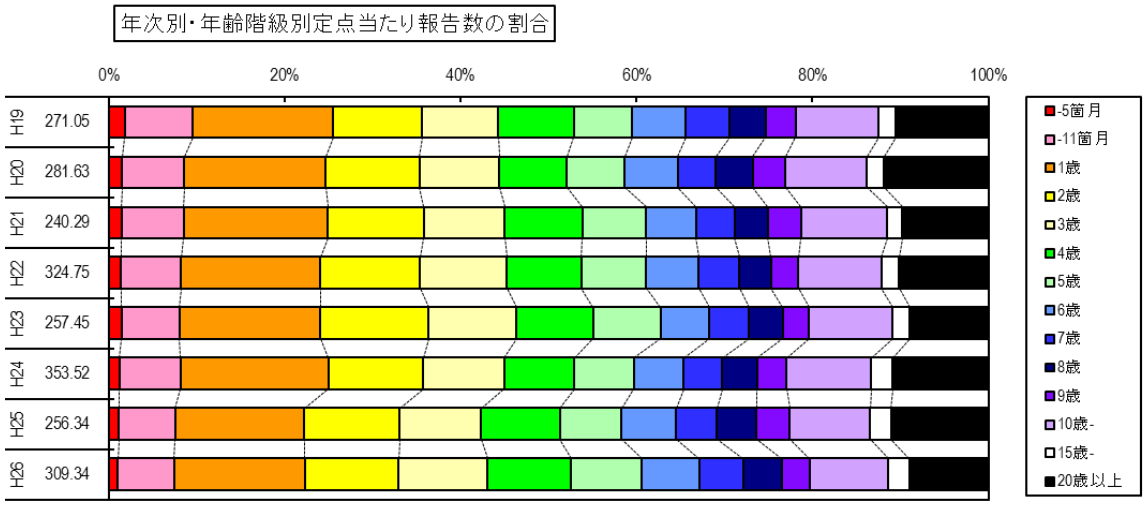
月別定点当たり報告数では，12月（36.56），5月（35.51），1月（34.85）が多く，7月～10月の報告数は少なかった。

年齢階級別では，1歳（14.9%）が最も多く，次いで2歳（10.7%），3歳（10.1%），4歳（9.4%）の順となり，1～4歳が全体の45.1%を占めた。









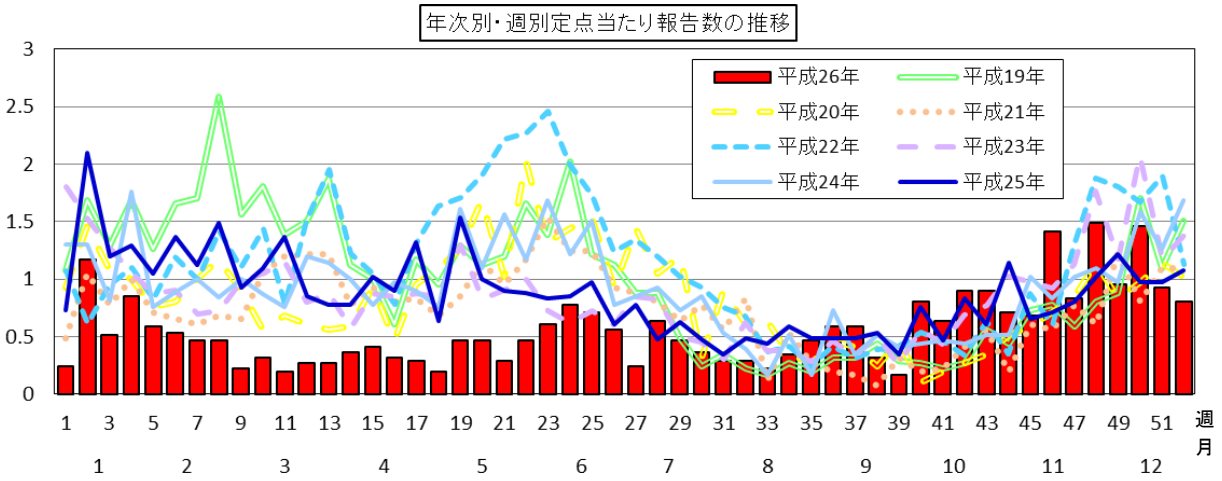
(オ)　水痘

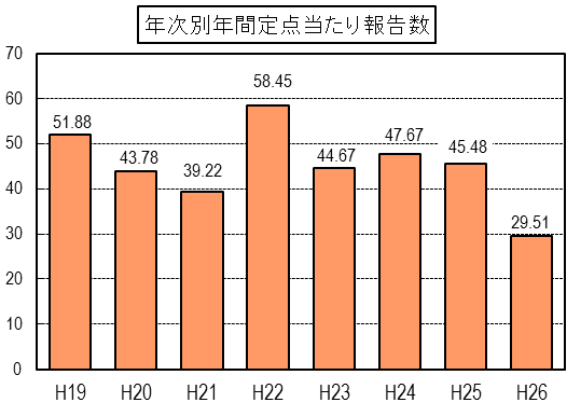
平成26年は年間報告数1,210例，年間定点当たり報告数29.51，年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.63，前年比0.65であった。

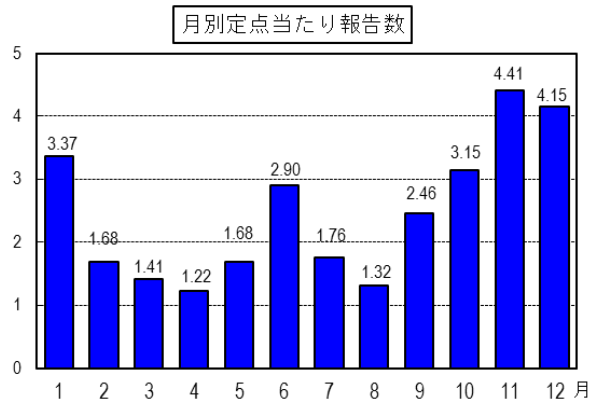
過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると，最も少なかった。

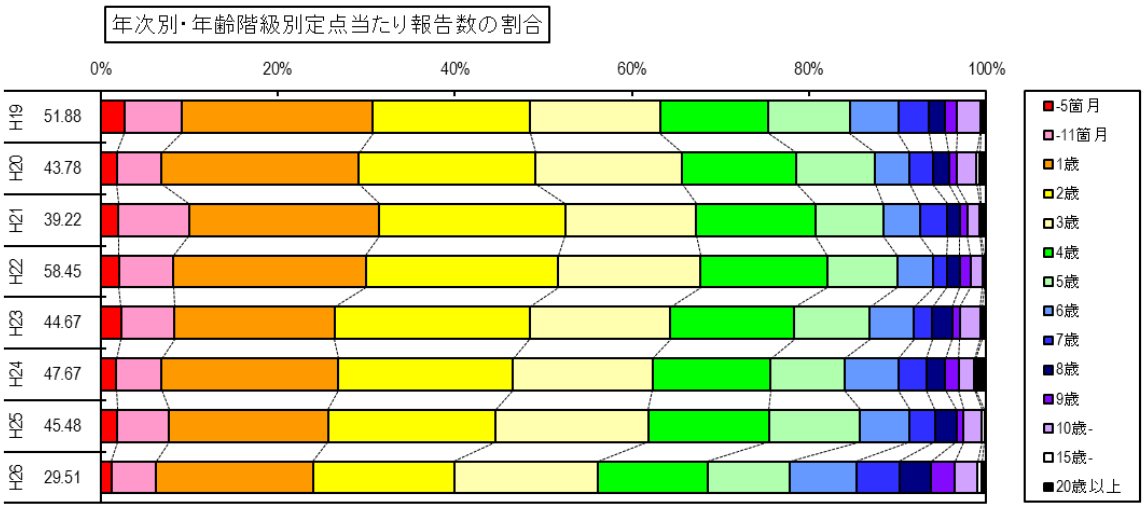
月別定点当たり報告数では，11月(4.41)，12月(4.15)，1月(3.37)が多かった。

年齢階級別では，1歳(17.7%)が最も多く，次いで3歳(16.3%)，2歳(16.0%)，4歳(12.3%)の順となり，1～4歳が全体の62.2%を占めた。









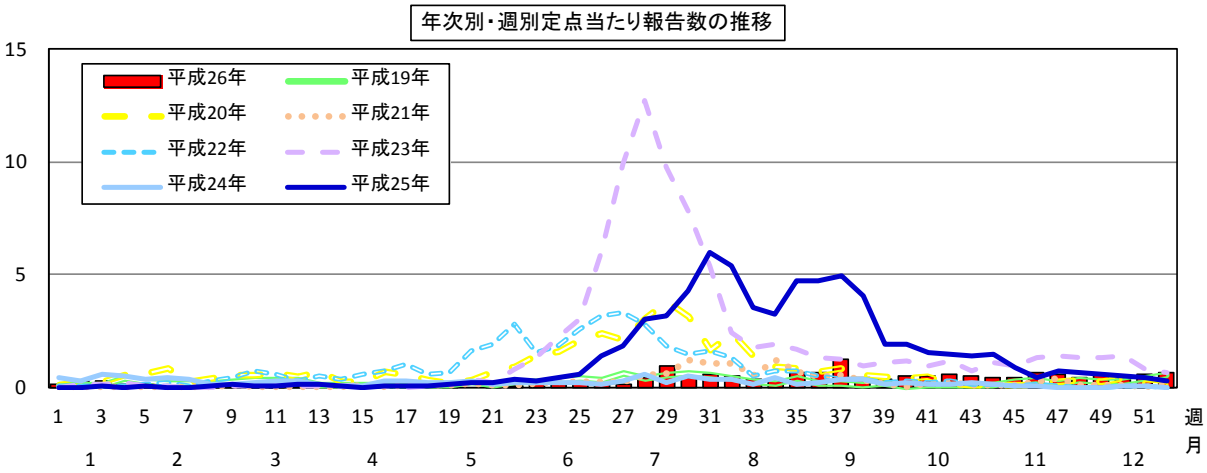
(ｶ)　手足口病

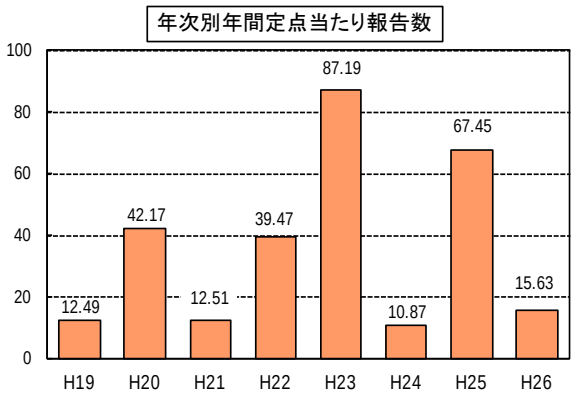
平成26年は年間報告数641例，年間定点当たり報告数15.63，年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.36，前年比0.23であった。

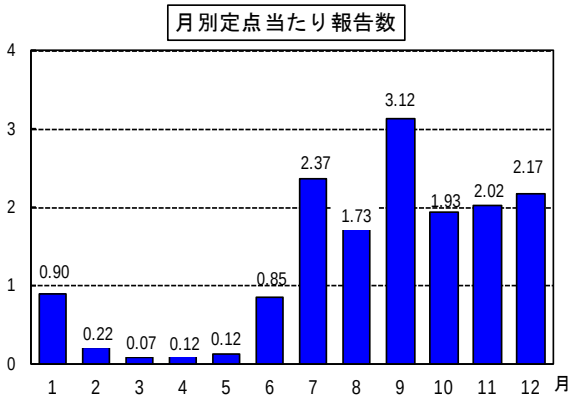
過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると，平成24年，平成19年，平成21年に次いで少なかった。

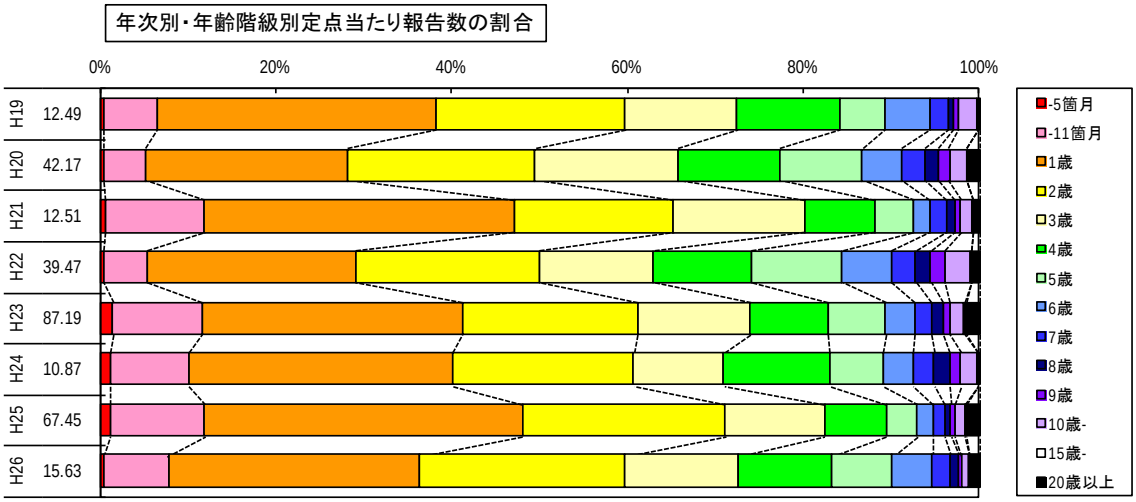
月別定点当たり報告数では，9月（3.12），7月（2.37），12月（2.17）が多く，2月～5月の報告数は少なかった。

年齢階級別では，1歳（28.5%）が最も多く，次いで2歳（23.4%），3歳（12.8%），4歳（10.8%）の順となり，1～4歳が全体の75.5%を占めた。









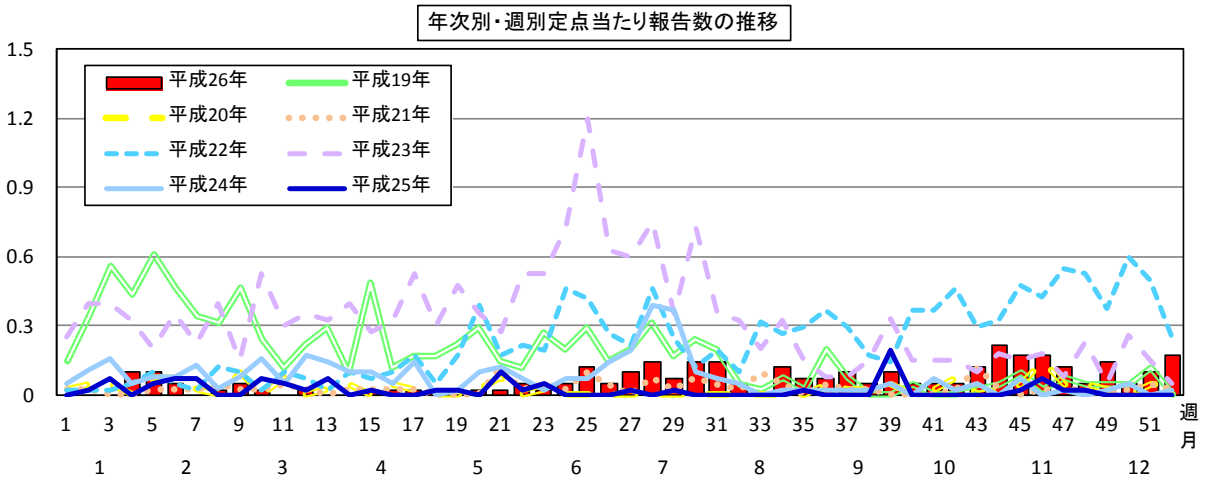
(ｷ)　伝染性紅斑

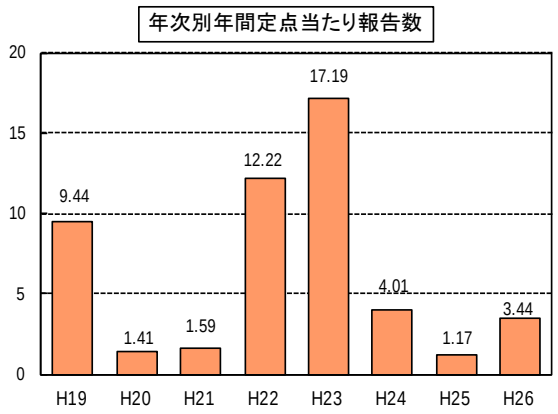
平成26年は年間報告数141例，年間定点当たり報告数3.44，年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.48，前年比2.94であった。

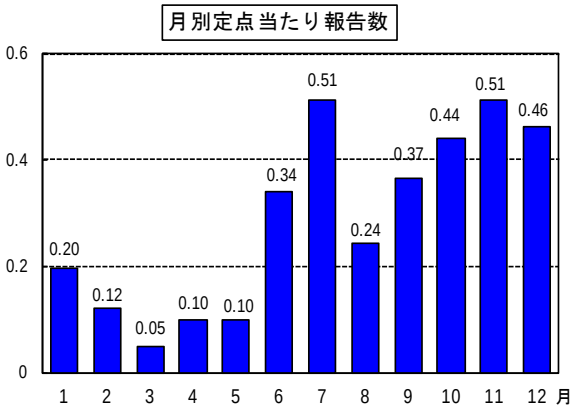
過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると，平成25年，平成20年，平成21年に次いで少なかった。

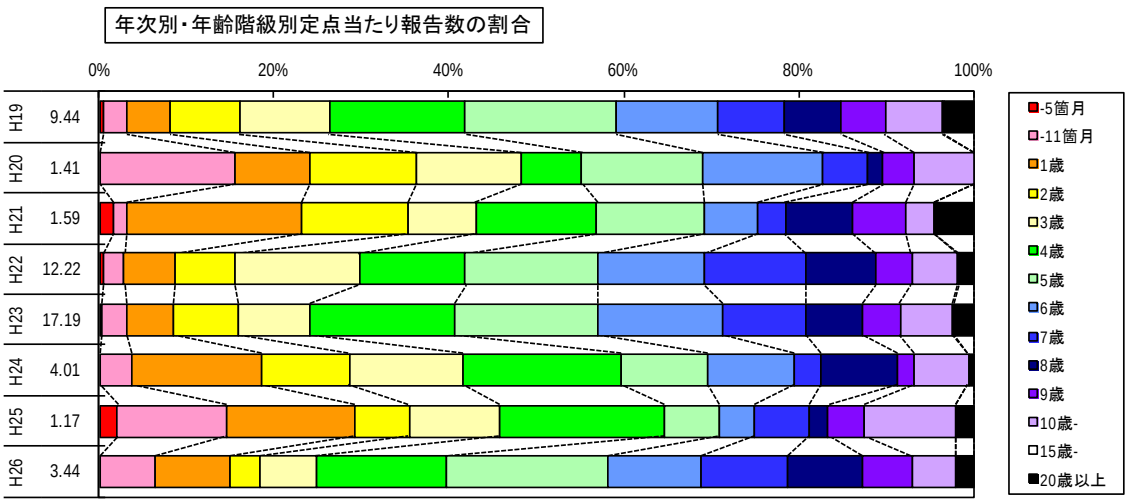
月別定点当たり報告数では，7月（0.51），11月（0.51）が最も多かった。

年齢階級別では，5歳（18.4%）が最も多く，次いで4歳（14.9%），6歳（10.6%）の順であった。









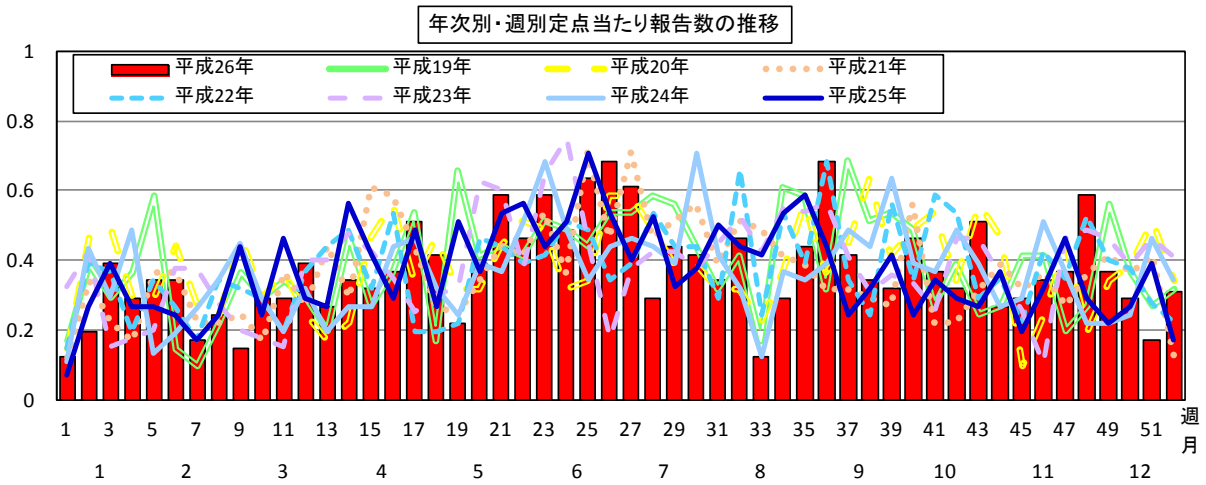
(ｸ)　突発性発しん

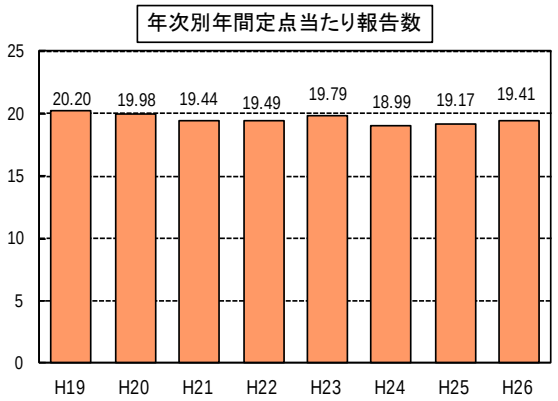
平成26年は年間報告数796例，年間定点当たり報告数19.41，年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.00，前年比1.01であった。

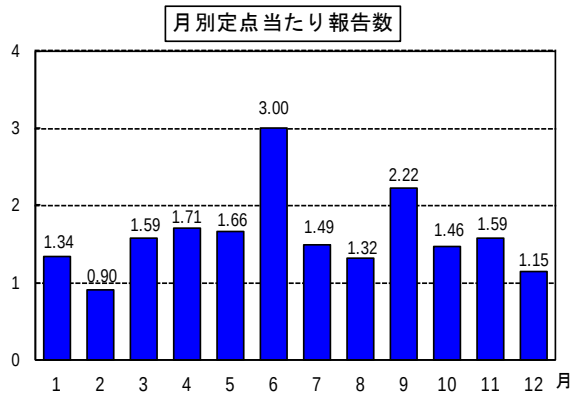
過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると，平成24年，平成25年に次いで少なかった。

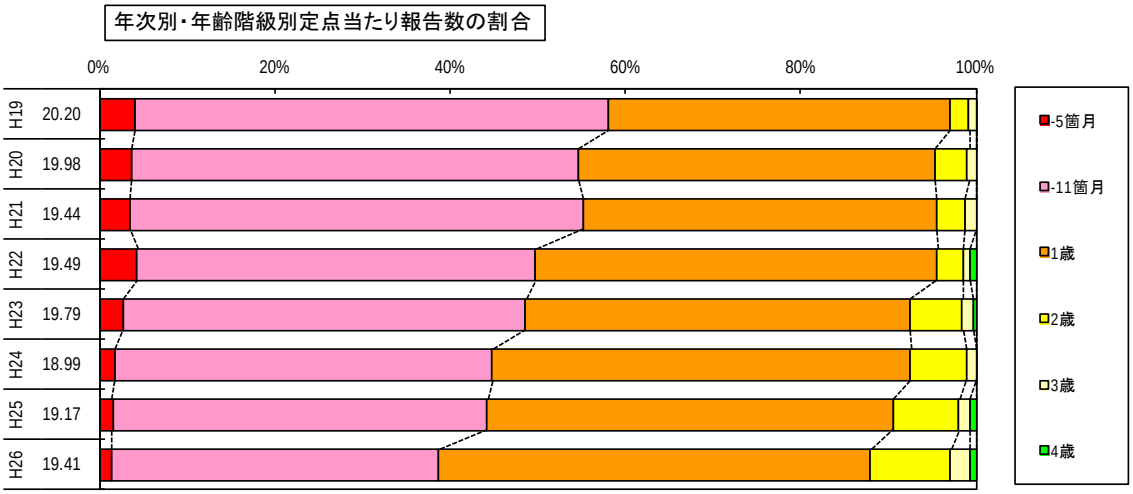
月別定点当たり報告数では，6月（3.00），9月（2.22）が多かった。

年齢階級別では，1歳（49.2%）が最も多く，次いで6箇月～11箇月（37.3%）の順で，1歳以下が全体の87.9%を占めた。





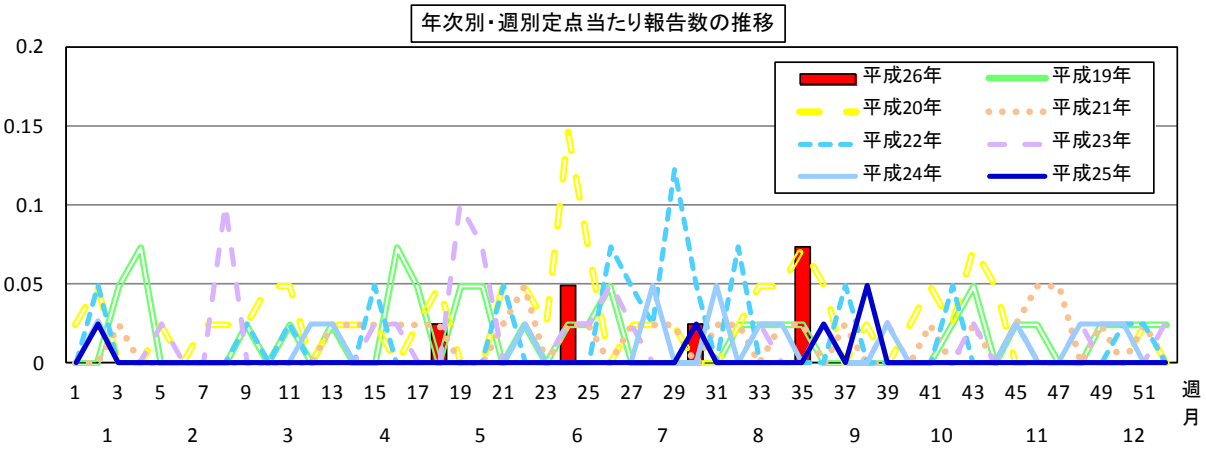


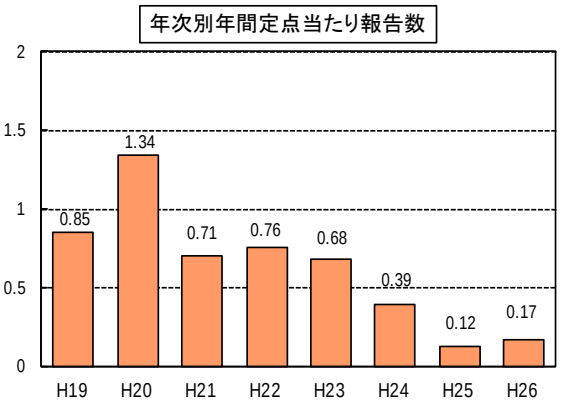


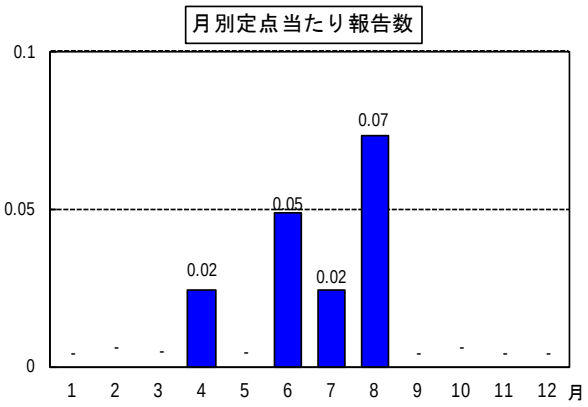
(ｹ)　百日咳

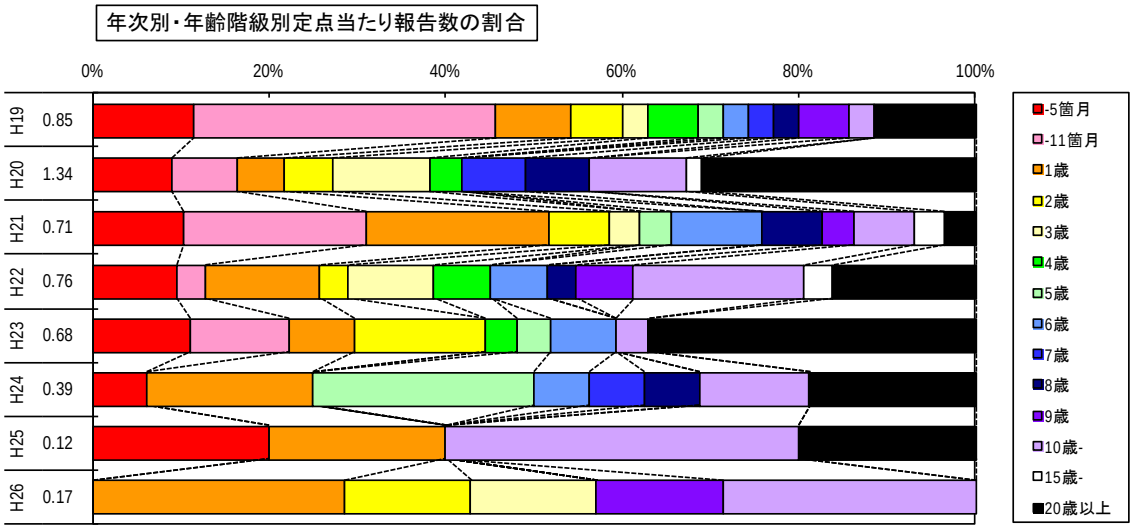
平成26年は年間報告数7例，年間定点当たり報告数0.17，年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.32，前年比1.42であった。

過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると，最も少なかった平成25年に次いで少なかった。









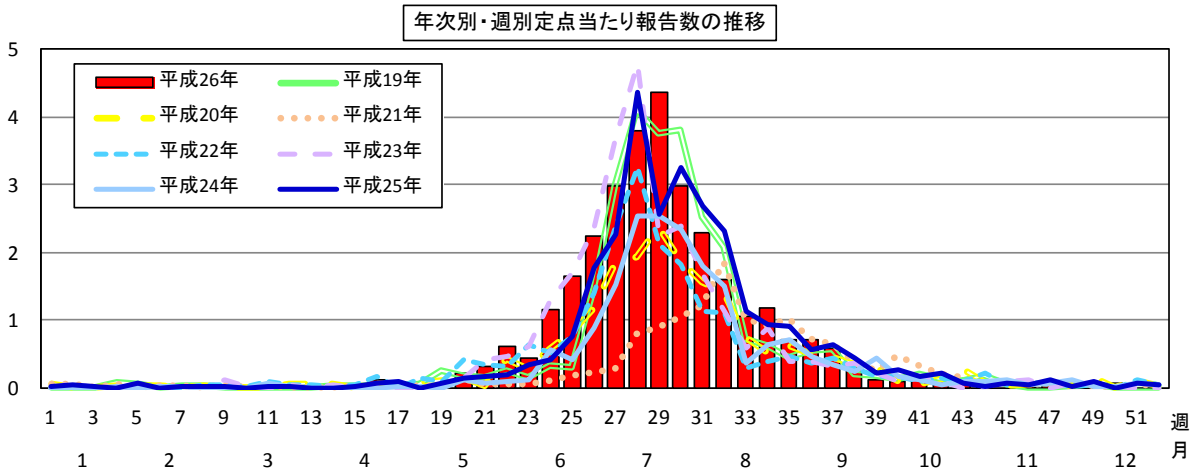
(ｺ)　ヘルパンギーナ

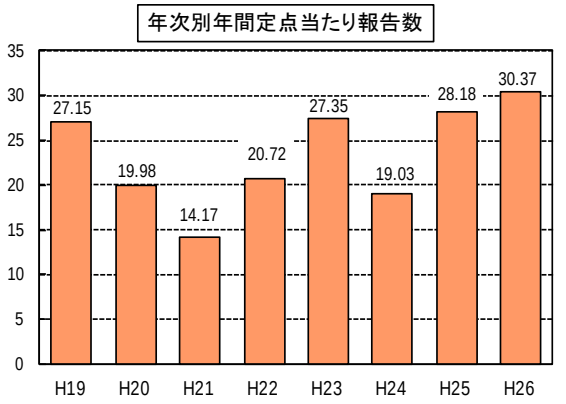
平成26年は年間報告数1,245例，年間定点当たり報告数30.37，年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.39，前年比1.08であった。

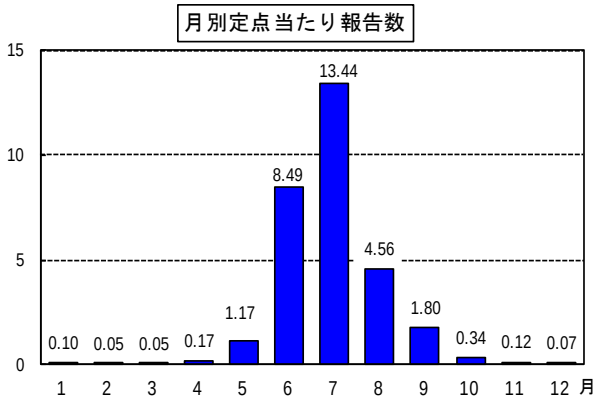
過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると，最も多かった。

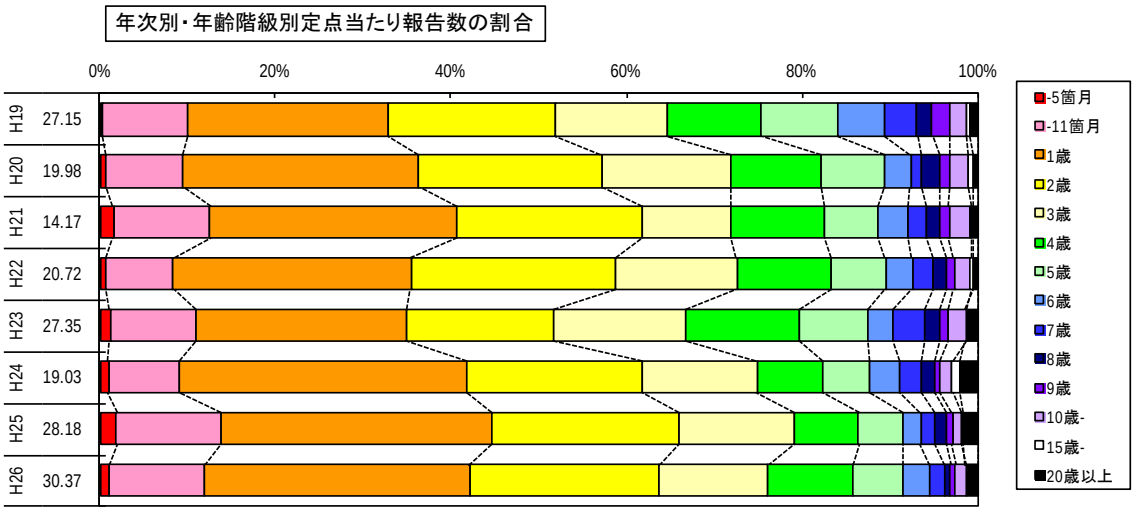
月別定点当たり報告数では，7月（13.44），6月（8.49），8月（4.56）の順で夏季に多かった。

年齢階級別では，1歳（30.1%）が最も多く，次いで2歳（21.6%），3歳（12.4%）の順で1～3歳が全体の64.1%を占めた。





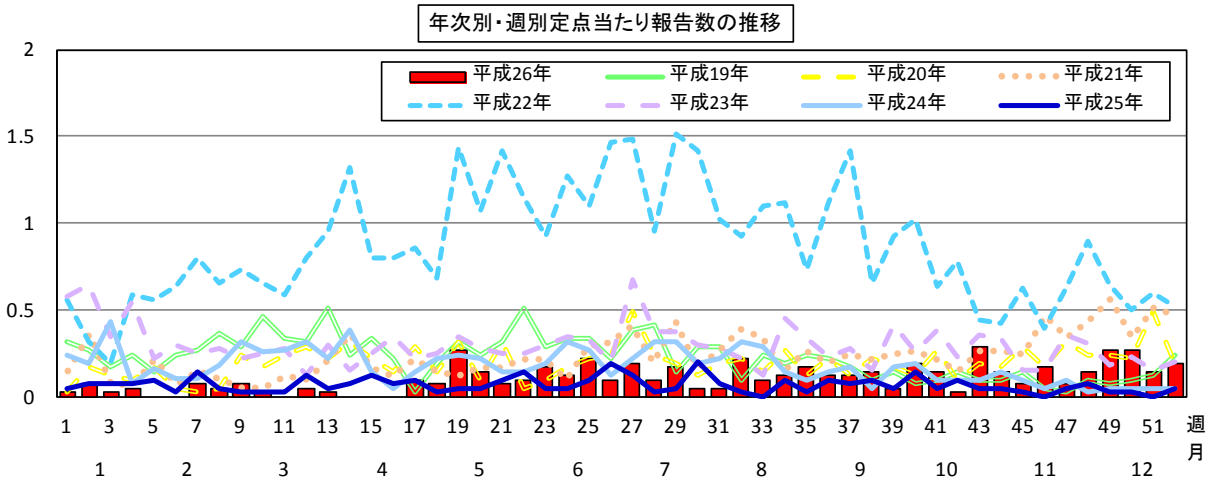
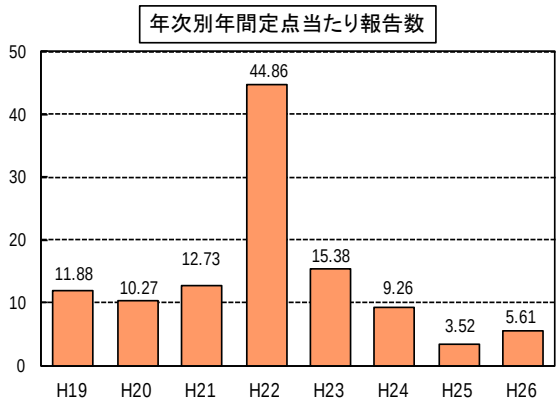
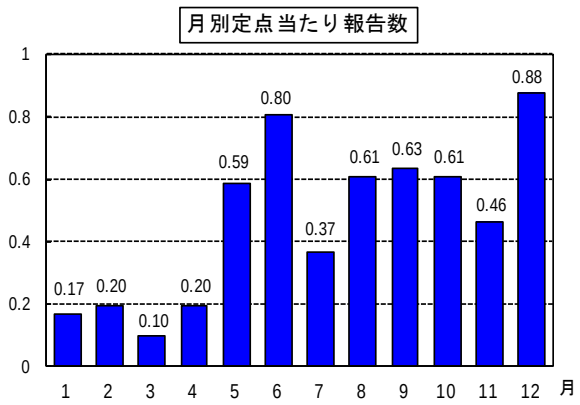
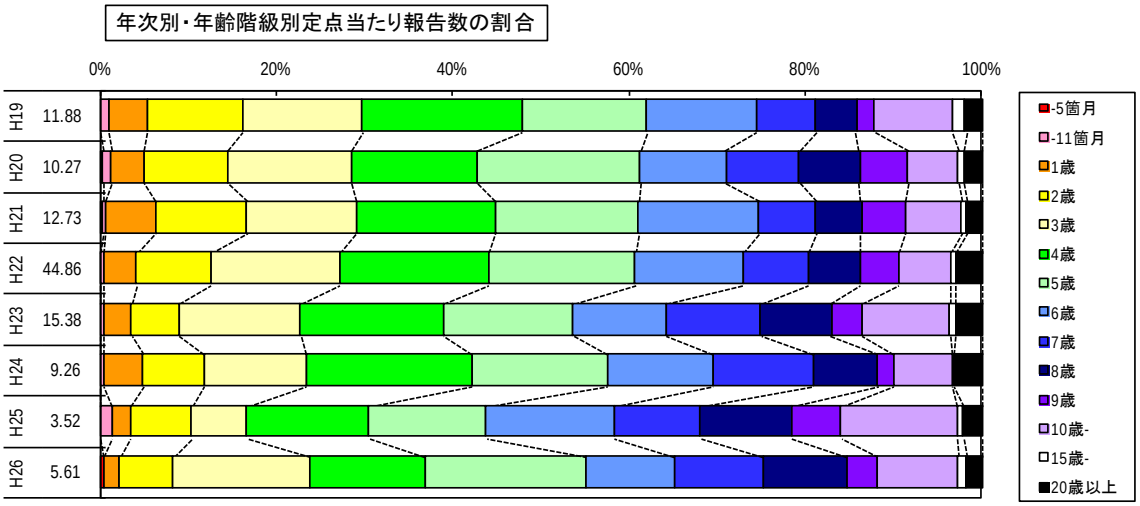




(ｻ)　流行性耳下腺炎

平成26年は年間報告数230例，年間定点当たり報告数5.61，年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.33，前年比1.59であった。

過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると，最も少なかった平成25年に次いで少なかった。

月別定点当たり報告数では，12月（0.88），6月（0.80）が多く，1月～4月の報告数は少なかった。

年齢階級別では，5歳（18.3%）が最も多く，次いで3歳（15.7%），4歳（13.0%）の順で，3～5歳が全体の47.0%を占めた。